

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	NPO法人北海道フィッシャーズ協会	北海道釧路市	高橋 麗治	アングラー・フィッシングガイド	釣りと地域振興	平成26年4月29日
	講演内容			研修成果		
道東はスポーツフィッシングフィールドとして素晴らしいのに経験豊富なガイド不足と釣りの受け入れ態勢が悪い。ガイド育成の重要性和、阿寒湖の釣り集客の取り組みや、講師自身の現状を例にあげて宿泊施設や飲食店等と連携し、釣りプラスのメニューを作ることが一層のフィッシングフィールドとして認知度を高め、地域にとってプラスになると考える。				参加者数:18名 漁協関係者は釣り集客の重要性を再認識したと話していました。釣りと関係ないと考えていた飲食関係者は、道内外から訪れるほとんどの釣り客が、富裕層であることを知り地元食材を利用したメニューを考えたいと話し、釣果主義だったガイドは受け入れサービスの重要性を認識させられたと話していました。宿泊関係者は釣りバックを前向きに検討したいと話していました。		
2	北海道自然エネルギー研究会	北海道札幌市	①牛山 泉 ②松岡 憲司	①足利工業大学・学長・機械工学 ②龍谷大学・教授・経済学	自然エネルギー実践研究の現状と将来展望	平成26年6月21日
	講演内容			研修成果		
【牛山 泉「風力エネルギー活用の現状と将来展望」】 陸上風力発電の世界的に見た今日的到達点、洋上風力発電の世界的動向と技術開発の現状、日本における風力発電導入の課題、将来の風力発電のあるべき姿について、総合的多面的に解説された。特に、日本においては、国や地方公共団体による先進的な導入戦略が求められている。 【松岡憲司「自然エネルギー活用における中小企業の役割」】 中小企業のもつ機能性、自然エネルギー産業の産業組織について太陽電池と風力発電を例示。再生可能エネルギー産業を製品アーキテクチャーから捉え直し、中小企業の参入可能性を論考された。小回りのきく中小企業だからこそ、新しい分野である自然エネルギー産業の中核を担う可能性を秘めている。				参加者数:62名 牛山先生が国の再生可能エネルギーの各種委員長を務められていることもあり、「再生可能エネルギー割り当て制度」であるRPS法など、今後の国家戦略としての自然エネルギーの方向性を知ることができた。また、牛山・松岡両先生からイギリスやデンマークなど諸外国の経験や諸課題を日本との比較で学ぶことができた。加えて、北海道における産学官民それぞれの役割と課題が明確となった。特に、北海道には豊富な自然エネルギーが存在し、地元企業による「地産」と地域住民による「地消」が再生可能エネルギーとなる循環型社会のモデルを北海道でこそ、最も可能性が高い地域であることが参加者に理解された。こうした取り組みこそが、北海道の活性化さらには地域経済の発展に寄与するだけでなく、未来を担う子供たちに夢と正しい科学観を提供することになると確信された。		
3	釧路アイヌ文化懇話会	北海道釧路市	藤村 久和	北海学園大学名誉教授	アイヌの人々に伝承された物語感～釧路管内を中心に～	平成26年10月5日
	講演内容			研修成果		
道東地区における口承文芸のジャンルについての説明を受ける。具体系にはトウイタク(説話)を例に、口承文芸の存在意義を語る。ある村に災いが襲いかかってくる。その時にどう対処したか。風、犬、鳥等の鳴き声は、アイヌに対する告知。一人ではなく集団で考える。子どもの意見も真摯に聞く。年寄りの言うことは知恵袋。みんなで協力、精進する等、社会として人間にとって必要なが話の中に盛り込まれている。若い時はなんでも思うことも、年を重ねるごとに役立つことがある。				参加者数:50名 アイヌの人々に伝承された物語感～釧路管内を中心に～と題した藤村先生の講演は参加した会員、一般市民に深い共感と感動を与えた。アイヌの古者と長年にわたり生活を共にしたその実績と成果が公園全体をリアルなものにした。特に道東地区に伝承された口承文芸のジャンルについてくわしく解説すると共に自らオイナやサコロベの一部を朗唱。その存在意義を次の様に強調された。「アイヌの人々が長い間、語り継ぎ、育み発展させてきた口承文芸は、まさしく生活実感に根ざした百科事典であり真剣に傾聴すべきだ。今後の活動に生かしていきたい。		
4	NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト	北海道札幌市	①深江園子 ②小野邦彦	①ジャーナリスト ②会社経営者	持続可能な農業と地域づくり	平成26年7月27日
	講演内容			研修成果		
深江さんからは函館の世界料理学会や十勝の小麦キャンプ、よいちスイーツコンテストなどの道内実践例をあげて、いかに「作り手(生産者)」「使い手(料理人)」「食べ手(消費者)」がつながる共生生産という概念について伺った。また、小野さんからは過剰な食糧生産によって文明が減じた歴史から、環境負荷の少ない農業の提案がされた。株式会社「坂ノ途中」では、新規就農の有機農家ばかりの野菜を扱っており、地域内での資源循環と敵地適作に基づく地域間の分業によって持続可能な農業と経営を目指しているという話をお聞かせした。また、会場である余市テラスの伊藤規久さんからは食を通して高齢者の居場所や人のつながりを作ろうとしている自身の取組について伺った。				参加者数:25名 新規就農者や就農希望者の視点や行政支援など多面的な質疑が行われた。スローフードも農業も「社会のため」「環境のため」という大義だけではなかなか広げられないので、「楽しい」「食べたい」という欲求に訴えながら多くの人を巻き込んでいくのがよいという提案があった。生産者同士、生産者と異業種の交流の大切さも確認された。 また、相談会では余市・仁木町内の新規就農者から具体的に悩みや課題が出され、地元での取組や将来の連携の可能性について話し合われ、翌日には実際に畑を訪ねての交流も行われた。		
5	いしかり海辺ファンクラブ	北海道札幌市	①浜本奈鼓 ②内藤華子 ③坂口智則 ④溝渕清彦	①特定非営利活動法人くすの木自然館代表理事 ②元石狩市海浜植物保護センター職員 ③石狩ウォーターパトロール代表 ④環境省北海道環境パートナーシップオフィス職員	海辺の自然を生かした環境保全と地域づくり	平成26年11月8日
	講演内容			研修成果		
「小さな海岸の大きな取り組み～霧島錦江湾国立公園への歩み」と題し、環境NPOくすの木自然館の浜本奈鼓代表理事に基調講演を行った。「優先すべきは地域の利益、尊重すべきは地域の個性」というスローガンのもと、地域の求める海岸像は何か、万単位の人に関わりを行い、自分たちの思いだけではなく、地元住民の気持ちも第一に考え、活動を続けてきた事に多いに感銘を受けた。ゴミ拾いに関しても話があったが、長年続ける継続力、そして、その結果をデータ化し発信する事の重要性がよく理解できた。地域のお年寄りや住民が日常的に集う場所となれる様、石狩海岸での活動の参考にした。				参加者数:60名 基調講演と石狩海岸で長年活動をされてきた3名の方によるパネルディスカッションの内容を基に、第二部では、講演者と参加者、スタッフ交えて意見交換会を行った。環境保全の事や、石狩海岸のPRの方法、また地元資源の有効活用といった多くの意見が出た。後日、いしかり海辺ファンクラブの来年度以降の活動にどのように取り入れて行くか話し合いを行った。分かった事は、地域と環境保全は、それぞれが独立した事柄なのではなく、密接に関係しているという事だ。これまで、地元との繋がりの希薄性は懸念されては来たが、なかなか実行に移せなかった。しかし、このフォーラムが大きききっかけとなり、来年度以降、継続して地元住民との対話を行っていく事が決まった。「未来に残そう、石狩海岸の自然」。このスローガンを基に、今後も活発な活動を行っていきたい。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	千歳どんぐりを守る会	北海道千歳市	宮脇 昭	横浜国立大学名誉教授	豊かな生活を守る命の森を ～千歳から世界へ～	平成26年11月2日
	講演内容			研修成果		
植物生態学者として半世紀以上に亘って現場で調査・研究活動をしてきたが、土地本来の森が世界中から消え去りつつあることに大きなショックを受け、少しでも土地本来の森を蘇らせようと、国内外1700ヶ所以上で4000万本を超える木を植えてきた。日本は自然災害の多い国であり、台風や地震は必ずやってくるが、「ふるさとの森」が、洪水、土砂崩れ、大火、津波などから「いのち」を守ってくれる。東日本大震災では、針葉樹は根こそぎ倒れたが、常緑広葉樹林は津波のエネルギーを減殺し、引き波でさらわれる人命や物を守った。根深性・直根性である土地本来の常緑広葉樹の森を広げて行くことが「いのち」を守ることになり、地球環境の保全に繋がる。				参加者数:120名 今回は新聞、市の広報誌、ポスター、チラシ、ロコミにより一般市民に広く呼びかけた結果、会場が一杯となった。宮脇氏が国内外で、自分が撮影した映像を流しながらの講演は、大変分かり易かった。宮脇氏がこれまで手掛けた森づくりを経年変化で映し、次第に成長する様子を見て宮脇理論の正しさを理解できたし、東日本大震災発生直後に現地を視察した映像は、津波にビクともせず且つ引き波に流される物の防波堤となっている様子が分かり、常緑広葉樹の逞しさを感じることが出来た。また、岩辺市を始めとする、ガレキを活かした森の防波堤造りの話に一同感銘を受けていた。今回の講演により災害に強く、地球環境の保全に役立つ「命の森づくり」の重要性を多くの市民が理解することができ、今後の自然が豊かな地域づくりに貢献できたと思う。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	NPO法人羅臼スポーツクラブら いず	北海道目梨郡 羅臼町	山中 理佳	フィットネスインストラクター	自己調整力を身に付けるエクササイズ講座	平成26年12月14日
	講演内容			研修成果		
「自己調整力をつける運動法・指導法」というタイトルで講話を頂いた。エクササイズには筋力をつけるものと、骨を調整しながら行なうものがあるということ。また、エクササイズによって骨を緩めて可動域を広げることで運動効率が更に上がるという事を教えて頂いた。今回は、参加者全員が女性という事もあり、加齢による女性特有の悩みや体の変化についても触れ、参加者の共感を得ながら講話を進めて頂いた。また、指導する立場に立った時の声かけの仕方や、受講者の安全確保についてもご教授いただいた。				参加者数:12名 これまで、町内では実現することの無かったプロによるエクササイズ指導であったため、人数は少ないものの、普段運動に馴染みのない町民も興味を持って参加して下さった。普段の生活に繋がるような講話と実技の指導を頂き、家庭でも取り組みやすい内容から、個々が健康に留意し自身で継続して取り組んでいけるような機会を頂くことができた。また、アンケート調査を実施したところ、今回の内容に全員が満足して下さり、個々の家庭での取り組みに加え、年に数回このような機会を望む声も多く聞くことができた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	特定非営利活動法人プロ・ワークス・十和田	青森県十和田市	①西脇 美智子 ②佐藤 企 ③山本 修路 ④大友 聡之 ⑤佐川 次郎	①朝日酒造株式会社取締役 ②株式会社鳩正宗南部杜氏 ③「酒プロジェクト」アーティスト ④歯科医 ⑤佐川商事代表取締役	世界の銘酒「久保田」が伝える地域づくりのこころ ～新潟県長岡市朝日酒造が取り組む地域づくりと造り酒屋の姿～	平成26年10月26日
	講演内容			研修成果		
<第一部 講演> 『酒造りは地域づくり、地域づくりは人づくり』 ・美味しいお酒はその地にある米・水等自然によっていただくもの。だから自然を構成する山や水を大切に活動が続けてきた。その活動を通じて関わる人々と地域について作り上げてきたことが大きい。(越路もみじの会、JAなど) ・私たちは基本的に広告を出さない。その代りに例えば伝統的な和紙づくり等ラベルに使用し文化を支えることに使いたいと思っている。(久保田等のラベルに使用) ・これからは徒に販路を拡大するつもりはない。日本酒を通じて日本の文化を分かっていただけの人たちと共有していきたいと考えている。(地元の米で地元の水にこだわりたい) <第二部 パネルディスカッション> 『佐藤企酒米づくりのこれまでとこれから』 ・これまでの取組をスライドショーで紹介 ・パネラーによる自己紹介と酒米づくりへの関わり紹介 ・山本修路氏より純米酒「天祈り」への思いとよそ者から見た十和田の自然の豊かさの説明 ・佐藤次郎氏より酒米づくりを通じて地域を知るキッカケになり地元が好きになってほしい夢の紹介 ・会場からの質疑応答で「これから酒米づくりは何を目指すか」がありそれぞれの思いを語る。 ・最後に今日の講演会で一人一人が心に留めたものを他の人に語り繋げていくことを確認し会を閉じた。				参加者数:50名 ・講演会を通じて日本酒が日本酒だけとして存在しているのではなく、そこにある地域資源としての水・森・空気によってもたらされそれに関わってくる地域の人たちによって作られるものだとして改めて学ぶことができた。 ・これまでの活動を田植え、稲刈り、ラベルデザイン等のイベントでの楽しみから何をしているのかの道標確認会のようなものになることができた。 ・酒米づくりに関わってきた十和田の有志たちの目指す姿がそこにあり、さらに仲間を増やし継続していくことを再認識できた。 ・これまで自分たちの活動を推進していく中での講演会や発表会があったものの、今回のように中間支援という構図で住民活動を民間同志で行っていくことの意義について再認識できた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	特定非営利活動法人驥北会	青森県十和田市	①藤田 知巳 ②長塚 孝 ③大森 康次 ④菊池 茂勝 ⑤上村 鮎子	①公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会部長 ②公益財団法人馬事文化財団 ③南部流鎗馬会 ④流鎗馬競技連盟 ⑤流鎗馬競技連盟	スポーツ流鎗馬イベントで地域活性化	平成26年8月9日 平成26年8月10日
	講演内容			研修成果		
1日目の座学研修では、十和田市馬事公苑「称徳館」を会場に、前半は藤田氏による、乗馬指導者として必要な馬事知識と事故予防のための安全対策について、馬の馴らしや調教の具体的な講習が行われた。後半は菊池氏と長塚氏が、「称徳館」にある馬の歴史文庫を使いながら、古来の流鎗馬の技術や考え方・神事での流鎗馬と現代の競技流鎗馬の違いなどについての講義を行った。 2日目は大森・上村氏による十和田乗馬倶楽部の流鎗馬練習場での実技研修を予定していたが、台風に伴う豪雨により内容の一部変更、屋内にて流鎗馬における馬具と馬装の正しい方法と、合理的な弓矢の使い方の実技練習会を行った。				参加者数:50名 全国の流鎗馬愛好者、乗馬指導者・団体を対象に広く告知した本研修会は、青森・岩手・宮城・福島・山形など東北地方だけではなく、遠くは東京・広島などからも集い、またその年齢も下は中学生から60代まで幅広く、改めてスポーツ流鎗馬普及を感じることができた機会となった。専門知識を有した講師による指導を通じ、これまで各地域で自己流で行ってきた参加者からも、古来からの伝統に学び、現代の環境にあわせた安全で楽しい乗馬に取組み、指導していくための意思統一を図ることができたという感想があがった。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
10	十和田市名水保全対策協議会	青森県十和田市	高村 弘毅	立正大学元学長・名誉教授	三本木原台地の地下水環境の蘇生に向けて～奥入瀬川の余剰水による地下水資源としての復権～	平成26年10月13日
	講演内容			研修成果		
減反率が49%の十和田市において、農閑期には灌漑用水の80%が余剰水となり太平洋に流去することになる。平成26年7月に施行された水循環基本法を受けて、今後、この余剰水の有効活用の在り方が問われるようになるであろう。秋田県六郷町では、1975年頃より清水の枯渇や井戸枯れなどの現象が起きていた。これは80年代の大規模圃場整備が完了すると同時にさらに顕著になってきた。そこで同町では、秋田大学の肥田教授や企業と共同で地下水調査を実施した。六郷扇状地では、現在、買上げた水田を5mほど掘り下げ、9月から4月まで農業用水を流し込み、人工的に地下に浸透させている。秋田県六郷扇状地における「水田の涵養効果」は年間5,250万円に相当するといわれている。人工涵養にかかる年間経費は約1,000万円、ダムなどによる水源開発に比べると4億円以上の節約になる。この取組みは、最近注目されるようになった水田の多面的機能を活かすことにもなる。この他、神奈川県秦野市の事例も上げた。新渡戸伝八先人達によって開拓され、人口疎水稲生川を有する三本木原台地は、扇頂部に河川がないため、降水・人口疎水・人工池等に造水資源を依存する以外にないことを行政も市民も認識しなければならない。先進地の事例に鑑み、三本木原台地の水環境蘇生対策として、「地下水の取水規制」「屋上・屋上降水による地下浸透促進」「農閑期の余剰水による地下水涵養」「涵養池を造り、農閑期の余剰水を地下水に涵養させる」「農閑期に灌漑農業用水路を利用した地下水涵養対策」などを提案した。				参加者数:53名 水循環基本法施工後の今後取組むべき課題や先進地の事例についての提示があり、また地下水環境蘇生のための対策として、涵養池の具体案も提示された。質疑応答の際には、一般市民からの質問があり、十和田市が開拓による疎水の恩恵を受けている一方で、奥入瀬川の余剰水の活用に關し、現状を認識し、今後の対策について理解を深めることができたといった感想が寄せられた。参加した市行政担当者、稲生川土地改良区、新渡戸記念館関係者、一般市民、当協議会会員らが今後、取組むべき課題について認識を深めることができた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①色平 哲郎 ②鎌田 慧 ③熊谷 拓治	①佐久総合病院医師 ②ジャーナリスト ③八戸市史編纂委員	地域の再生 安藤昌益 風と土	平成26年10月12日
	講演内容			研修成果		
長野県佐久総合病院医師の色平哲郎さんが「安藤昌益、地域づくりの夢とロマン」と題して、地域医療に取り組んでいる姿を、医者安藤昌益と現代の医療の姿を比較しながら、基調講演をした。日本の健康保険は、世界的に見てすぐれた制度である。また、江戸時代の社会構造が「お金が人を支配する」という形で現代の途上国でも続いているとした上で「21世紀も同じ課題がある」という認識を持つことが、昌益の心意を引き継ぐこと」と指摘した。外から来た安藤昌益「風の人」が八戸の地域の「土の人」と関わながら「地域のこころ」がどう変わっていったのかを、医者の立場から見た安藤昌益を語っていただいた。				参加者数:60名 シンポジウムでは鎌田慧さんが田中正造と安藤昌益を比較して似ている部分があることや、ルソーの思想など、欧州の人権意識も昌益は知っていたのではないかと分析し、議論が深まった。熊谷拓治さんは、「風」の如く八戸に来た昌益は、この八戸の地、「土」に社会の矛盾の根源を見て、独自の強烈な論理、「心」を構築した。やがて生まれた二井田に帰り故郷の「土」になったと語った。また、貴重な資料があることで、それをベースに新たな世代が学び、育っていく。地域を変えるエネルギーを持つ場所だと熱く語り、来場者に深い感銘を与えた。テーマの「地域の再生～安藤昌益 風と土」にふさわしい内容で、来場者の方々に来てよかったとの声をいただいた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
12	特定非営利活動法人なんぶねっと	青森県三戸郡南部町	①渡邊 洋一 ②佐々木 貴子 ③山本 郁子	①食と農と福祉の連携検討委員会 座長 ②農業 ③南部町社会福祉協議会 法人運営課長	食と農と福祉の連携～今後の地域福祉	平成27年1月28日
	講演内容			研修成果		
講師渡邊洋一氏による『食と農と福祉の連携～今後の地域福祉』と題した講演とパネリストに佐々木貴子氏と山本郁子氏を迎え、コーディネーターに渡邊氏で『食と農と福祉の連携による地域づくり』をテーマとしたパネルディスカッションを行った。内容は、食、農、福祉という縦割りの事業には限界が生じており、それぞれをうまく連携させることで地域創生に結び付けられる。人と人との助け合い、支え合いとともに、自然の中での生業(農林水産)を結び、新たな福祉事業とすることで発展していくと連携の重要性が話された。				参加者数:26名 研修により、単一の事業展開ではなく、分野ごとに連携した取り組みが今後重要であると参加者で共通理解することができた。また、農業の後継者不足という課題を福祉の就労支援と結び、農業を推進することもできるという様々な可能性が連携により生まれるということも。共通する課題を持っている点からも今後情報交換や地域の中で協働できる参加者同士のつながりもできるよい機会ともなった。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	特定非営利活動法人あおもりNPOサポートセンター	青森県青森市	陸奥 賢	観光家・コモンズデザイナー・社会実験者	「まわしよみ新聞」ワークショップ	平成27年2月15日
	講演内容			研修成果		
講師の陸奥さんよりまわしよみ新聞について「ニュースを“選んで”“切り取り”、なぜそれを選んだかを“話して”、顔の見える記事として“再編集”します。楽しんでください。」と説明があった後、各テーブルごとのグループで新聞をまわしよみで記事を切り取る「まわしよみタイム」、切り抜いた記事をプレゼンして感想を言い合う「プレゼンタイム」、切り抜いた記事を使って壁新聞を作る「新聞づくりタイム」、出来上がった新聞を発表し合う「まわしよみタイム」を行った。その後陸奥さんから「まわしよみ新聞とは他者を理解するコミュニケーション・ツールであること、メディア・リテラシーを育てるものであること。」などまわしよみ新聞の効果について解説していただき、今後いろんな形でそれぞれが編集長となって開催して欲しいと締めくくり終了した。				参加者数:30名 今回のワークショップを通じて、様々な世代間で新聞をコミュニケーションツールに多くの対話が生まれました。新聞を購読しても隅から隅まで熟読することは少ないものですが、参加者からは1面から広告まで目を通し、新聞の持つ雑多性に気づいたとの声が聞かれました。また、新聞離れしていると言われる若い世代が新聞を身近に感じ、他者の考えに耳を傾け、自分の意見を他の世代に向け発信しており、単なるメディア遊びにとどまらず、様々な切り口で地域について考えることにも繋がったと思います。参加者がそれぞれのフィールドで「まわしよみ新聞」を開催したいとの声が多数聞かれました。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
14	農事組合法人湯の郷	岩手県花巻市	高橋 テツ	株式会社かんな代表取締役	私の取り組んでいる6次産業	平成26年6月15日
	講演内容			研修成果		
JAいわて花巻農協の「母ちゃんハウスだあすこ」立ち上げに始まって、H26・27年までには花巻市姉妹都市平塚市中心とした花巻地元産の宅配、加工品開発による品ぞろえ、各種イベントに積極的参加と、休むことなく次々と新しい事業に挑戦。認定農業者、そして女性担い手、農協理事と活動の幅は広くなり今春には、はなまき湯口ブランド推進協議会を発足し、今回の研修会をご縁に私ども「湯の郷」もメンバーとして活動していくことになりました。いよいよ「湯の郷」独自商品の開発が急がれます。花巻南温泉郷滞在のお客様を対象とした売れる商品開発に挑戦です。				参加者数:40名 すでに6次産業を実践され、着実に成果を上げておられる株式会社「かんな」代表取締役 高橋 テツさんのお話を聴く機会は、これより本格的立ち上げをしようとしている「湯の郷」組合員は勿論、聴講された関係者にとって良い刺激になったと感じております。 花巻南温泉郷と大沢地域が共存、共栄できる雇用の確保と観光地に相応しい景観の維持、そして「湯の郷」独自商品開発が急がれます。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
15	地域づくりネットワークもりおか	岩手県滝沢市	高野 誠鮮	羽咋市非常勤職員	まちの宝を活かすために	平成26年11月15日
	講演内容			研修成果		
【現地視察】赤い屋根の分校(旧江茄川分校・現廃校)にて、オリエンテーション、学校見学の後、現地視察を行いました。 ・地域の女性の活躍の場として活動する「森のそば屋・みちくさの驛」及び水車小屋の見学、昼食。(高家章子代表) ・酪農家の女性で組織する「くずまきジェラート クローバ畑」の見学、休憩。(中村和子代表) 【講演研修】「共通の危機意識からまちづくり再生は実現する」と題しての高野誠鮮氏によるご講演をいただきました。 講演では、独創的で斬新な発想で、小さな集落を活性化させ、高齢化率の改善や農家の所得向上など大きな成果を上げられた様々な事例が紹介され、聴講者の大きな関心を引きました。 【活動事例発表】現地視察先の高家章子代表及び中村和子代表による活動事例発表の後、参加者との質疑となりました。最後の閉めとして講師からの講評、及び助言をいただきました。				参加者数:67名 これまで本ネットワークが主催する研修会は、会員及び盛岡広域8市町の賛助会員を対象としていましたが、7月の研修会に続き、一般参加を呼びかけたところ、各地で地域づくりに参画している方、興味を持つ方なども参加して開催することができました。 また、時節柄、各地の開催行事と重なり、参加者増に結びつけることができずでしたが、意識の高い参加者が多く、非常に内容の濃い有意義な研修会となりました。 参加者アンケートの回答では、95%の方が「満足」、残りの方も「普通」(不満0)という好評の結果となったところです。 また、「もっと多くの方に聞かせたい」、「これからも地域づくりに取組んでいきたい」などの声も寄せられているところです。 研修成果の総括として、ネットワークの活性化、ひいては地域の活性化に寄与する内容となり、今後の本ネットワークの更なる発展に繋がる有意義な研修会となりました。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	東北コミュニティガーデン	岩手県宮古市	畑 明宏	造園家・樹木医	楽しく誰でも参加できる“コミュニティガーデン”を作ろう!	平成26年11月29日 平成26年11月30日
	講演内容			研修成果		
11月29日:平面図を使って、ガーデンの全体図の説明をした。地元の建設会社から寄贈頂いた枕木を使って、枕木の設置の方法、美しく見える配置の仕方などを畑講師の指導の下、すべて手作業で進めた。 11月30日:昨日の作業に加えて、苗はコミュニティガーデンを意識した暖色系を畑講師がセレクトした。植え付け方法も震災で水道撤去されている場所でも、水撒きをしながらも大丈夫な植え方の指導をうけた。最後に、残った材料の片付け方も、周囲に配慮した並べ方を提案され参加者レイアウトし終了した。				参加者数:42名 講話を聴きながら、実際に作業を進めていくというユニークなスタイルのワークショップで、時々、手を休めて畑講師の説明を聞くことにより、5歳から75歳までの参加者が無理なく参加できたようである。参加スタイルも時間内で出入り自由な形態にすることを自己選択してもらいメンタルに負担のない配慮をした。参加者同士がワークショップを実践しながら交流が所々であり、参加者が元気になっていく様子がうかがえた。また、通りがかりの人が足を止めて話をしたりと、コミュニティガーデンの周知と地域の方の理解が深まった。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	NPO法人黒川こころの応援団	宮城県黒川郡大和町	①高橋 慎二 ②安彦 講平 ③名倉 要造 ④本木 健 ⑤江中 裕子 ⑥長谷川 亮介 ⑦佐藤 由幸 ⑧齋 正弘 ⑨板垣 崇志	①フリーカメラマン・映画監督・関東学芸大学非常勤講師 ②造形教室主宰・東京学芸大学等非常勤講師 ③画家 ④画家 ⑤画家 ⑥画家 ⑦画家 ⑧宮城県美術館創作室教育普及学芸員・美術家 ⑨るんいこい美術館学芸員・美術家	アートを通じて、障害者の尊厳を見直し、ボーダレスアートへの関心を高める	平成26年8月16日 平成26年8月17日
	講演内容			研修成果		
本研修は①高橋慎二監督作品「破片のきらめき〜心の杖として鏡として」上映②同時開催の映画に登場する作品群展示会を通して行われました。 助成対象として実施したのは、そのうちの、映画監督として主人公である安藤講平造形教室主宰とその作者たちによる(A)パネルディスカッション。および翌日の作品を前にしての(B)ギャラリートークです。 映画の現場である平川病院は精神科病院。そこで「病んでいる」と云われている人たちの描き出す作品群は現代社会が見失ってしまったもの、私たちにどうやってかけがえのないものをはっきりと浮かび上がらせました。「病む」とは何か「表現」とは何か、そして「生きる」とは何かをパネルディスカッション(一日目)、作品を前にしたギャラリートーク(二日目)を通して考えていきました。				参加者数:150名 期待以上に多くの一般市民に参加していただき、障害という人間の間というものを、より深く理解していく助けとしてもらえたと思います。それがアートという物を通して、より深く心に響いたであろうと思います。 今回の企画を通して、今後も継続していくことで、将来的には私たちの地元黒川郡大和町に宮城県初のボーダレスアート美術館を設立したいという希望により近づく思いを深くしました。ボーダレスアートが生まれてくる過程を知り、その作品の価値が認められ、その活動拠点が黒川郡大和町に築かれますように、その拠点を軸として黒川郡周辺(七ツ森文化圏)がアートによる町興しを行える事、そして障害者への理解が深まっていく事、それが共に、より現実化していく事の一步だったと思います。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	大崎コミュニティカレッジ	宮城県大崎市	①林家 とんでん平 ②土田 英順	①札幌市市議会議員・落語家 ②音楽家・元札幌交響楽団首席奏者	お笑い音楽で地域を明るく元気に	平成26年11月16日
	講演内容			研修成果		
皆さん、こんにちは。福山雅治です！やはり落語家は違う。これも枕なのか、最初から聴衆の心をグッと掴む。故林家三平の最後の弟子として入門したこと、リヤカーで全国行脚したこと、落語会で皆笑っているのに笑わない子供がいたこと、それで手話落語を始めたこと、結婚して子供を授かったが障害も授かったこと、その子供が美術の才能があっただけで患者さんの点滴やナースの用具の道具をデザインしていること等笑いを交えての講演。土屋英順さんも偶然の成せる業、ということで札幌の彫刻家の友人に大船渡に行ってくれ、といわれて震災後何度も仮設住宅に泊りながら演奏を続けていることを話して下さった。			参加者数:90名 お二人の講演を通して、社会において弱者と言われる人々に光を当てたい、その力になりたい、自分が活動することで、その人たちの力になれば本望だ、というメッセージが強く伝わってきた。ともすれば楽に流される風潮に、敢えて逆らって困難な道に殆ど無報酬で活動が続けることの偉大さに改めて尊敬を禁じ得なかった。地域に住む暮らす者たちがやらなければならないことだと考えるのに頭が下がる・・・大崎法人会や他の団体との協力体制がなかなか展開出来ていないが若い学生たちとの接点を見出せたことは評価出来ると思う。			
19	宮城県精神障がい者家族連合会仙南ブロック連絡協議会	宮城県角田市	伊藤 千尋	淑徳大学総合福祉学部講師	家族支援を考える～家族相談から見えてきたもの～	平成27年2月10日
	講演内容			研修成果		
家族の現状、家族主義の考え方、家族の置かれている状況の説明。それでも家族は困難を抱えながらもベストを尽くして、自分たちで工夫しながら暮らしている。支援については訪問支援、適切な情報提供を。情報は大切に家族教室は継続していただきたい。そのためには現在メデデン版訪問家族支援プロジェクトが進んでおり、これからのスケジュール等時間はかかるが一步一步遊んでいきたいので理解をお願いしたい。			参加者数:65名 地域活動から見ると集落が最大の成果で最大の悩みであります。どちらの家族会でも役員のみ出席の現状があり、最大の課題です。今回の講演会のPRは各家族会6団体の各市町広報だよりのPRだけでありましたが、民生委員の方達が来場していただき会を越えてPRのやり方を考えていく機会を得ました。アンケートでは、「本人だけのケアだけでなく家族をひくるための支援は精神障がい者の方だけでなくすべての障がい者がかかっている本人・家族にとってもとても重要で大切なことだと思います。」といった回答もありました。			
20	豊川油田の歴史を伝える会	秋田県潟上市	岡村 道雄	考古学研究者	講演会「豊川タールビット物語」	平成26年10月26日
	講演内容			研修成果		
アスファルトの原産地は旧昭和町の豊川油田に加えて、旧二ツ井町の駒形が知られている。多数の原産地利用と精製遺跡の存在により新潟県上越`北海道天山川油田までに点在していることが解った。精製方法については仮説を基に新潟市埋蔵文化センターで精製実験を行った。流通は小型土器や皮袋等に小分けして運搬していたことが解った。問題提起と今後へ期待として、原産地特定と精製工程解明、アスファルト塊の科学分析など研究し、縄文からの現代に受け継がれたアスファルトの利用を考古学的に調べて、歴史や民族史・鉱業史などに学び、そして豊川のアスファルトの歴史を現代につなげるために保存活用を積極的に進めて行くべきとの講演であった。			参加者数:55名 縄文人の暮らしは多種類の植物・多種類の木の実及び貝類(貝塚などで解る)等を食べ物にしていた。現代人では考えられない程の広範囲で豊富な食材を食べていたことが遺跡物発掘調査で実証していることを知り得た。その豊さを支えた土器や鎌の接着剤等に天然アスファルトの利用が各地に流通し縄文人の生活必需品であったことが考古学的・科学的に解りやすくお話を頂きましたので、原産地であった豊川の地元の方々には「豊川アスファルトの地域価値(豊川タールビット)」の意義を充分に理解して頂いたと思う。又、問題提起と今後への期待については当会活動の指標に役立つものであった。			
21	秋田人変身力会議	秋田県秋田市	藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所 首席研究員	講演会「里山資本主義による秋田の再生」	平成26年12月17日
	講演内容			研修成果		
・地域活性化とは若者が戻ってきて子供が生まれ続けて人口が減らなくなることであり、誇りを持って地域を残すことである。アベノミクスで株が上がったが消費は増えていない。消費が増えないのは人口が増えないからである。秋田の人口は今後90年でゼロになる凄まじいペースで進行している。 ・秋田の人口減少を食い止めるためには、県民の年間消費額のうち県産品消費を1%増やすだけで2千2百人の雇用が創出され、県民の年間消費エネルギーを1%省エネ及び風力等地産エネルギーで賄い、その余剰分を県産品の購入に充てれば1千1百人の雇用が創出される。 ・結論としては「里山資本主義」で地域を活性化するためには、①安さでは勝負せず高品質の商品で外貨を獲得し②お金と遊休資産をもっと地域内で回して③省エネ+自然エネルギーでエネルギー代を節約することである。			参加者数:280名 ・講師が秋田の再生策として示した処方箋は①地域の産品を原料として東京等に販売するのではなく、高品質の農産物に付加価値を付けて「地域ブランド商品」として販売することで、雇用が創出され高い賃金を支払うことが出来る。 ②地産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い尽くすことで、女性や障がい者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励し、空き不動産は安く賃貸する。 ③建物の改築・断熱改修を進めて大幅な省エネを実現し、建材はなるべく地元産材を使い、木屑を燃料に使う。小水力・風力・地中熱・廃油・排熱を余さず使う。 以上の処方箋には説得力があり県民がその気になりさえすれば直ぐにでも取り組める内容であった。 ・講演会の参加者は自治体職員80名、企業関係者150名、その他県民50名であったが、今後は上記処方箋をそれぞれの組織で検討し、実践していくことを期待しているが、当会議も機会あるごとに地方自治体、企業に訴えて行きたい。 また、県民にも県産品を消費することが地域の活性化に直結することを訴えて行きたい。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	認定NPO法人 山形創造NPO 支援ネットワーク	山形県山形市	田尻 佳史	認定NPO法人日本NPO センター常務理事	地域の未来づくりとNPOの役割	平成26年12月12日 平成26年12月13日
	講演内容			研修成果		
日本のNPOのこれまでの15年とこれからの15年についての講演。 地域の多様化するニーズ、行政システムの限界による改善策、地域主権による地域独自の取り組み策、「公益」の担い手の多様化等により、NPOへの期待があった15年だった。阪神淡路大震災がNPO法制定に追い風となった。東日本大震災発生と共に、企業が積極的に支援を開始する等、市民活動の環境が変化した。これからの15年は地域課題が多様化するため、多様なセクターと有機的な連携を持って地域での活動が必要となる。					参加者数:64名 地域の未来とNPOの役割について研修することが出来た。特に、地域を活性化にして未来に引き継ぐには、NPOの活性化は欠かすことが出来ない。そのため、NPO法制定以前のNPOセクターの動き、制定後の動き、東日本大震災以降のNPOの活動、今、地域人口減少社会時代になり、地域経済が成り立たなくなる等の現象が起きてくる懸念等についてより分かりやすく研修することができた。これによってより効果的な地域でのNPO活動の重要性が認識できた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
23	ヤマガタ未来ラボ	山形県東村山郡山辺町	山口 覚	NPO法人地域交流センター理事・津屋崎ランチ代表	地域での仕事を生み出す研修	平成26年11月22日
	講演内容			研修成果		
地域が抱えている課題を解決するプロジェクトを考える参加者に対して、実際のまちづくりの現場で取り組んでいる山口さんからの視点でお話し頂いた。特に、プロジェクトをカタチにする際の留意点などを中心にお話し頂いた。ただ講演するだけでなく、参加者が気づきを得て主体的に行動できるようになる内容であった。					参加者数:15名 都会在住の参加者それぞれが考えたプロジェクトは、地域の人を巻き込めるか等、現場で活動されている山口さんの視点からチェックして頂いたり、相手の立場や「顧客の顧客」の立場になるワークショップを行って、都度修正を繰り返す事で、参加者が地域に提案出来るプロジェクトを作ることが出来た。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	福島県公共図書館協会	福島県福島市	①赤坂 憲雄 ②菅野 俊之	①学習院大学教授 ②福島学院大学非常勤講師	地域振興のための「見つけなおす地域文化」事業 ①文化講演会「地域の文化振興に求められる図書館の役割」 ②文化講座「福島文学散歩～知られざる名作を求めて～」	平成26年10月25日 平成26年10月26日
	講演内容			研修成果		
(講演要旨) ①講師がこれまで、山形や遠野を中心に取り組んできた地域文化研究と実務を踏まえながら、東日本大震災を一つのキーワードとして、次世代への「体験の継承」が必要であること、そのためには情報や記録が非常に重要な意味を持つものであり、こうした情報を蓄積している、図書館をはじめとした各種施設の活動が、地域を育み、地域の文化振興を図っていくものである。 ②明治の文豪・田山花袋、福島生まれの詩人・鈴木梅子、作家・結城信一を取り上げ、福島県との関わりについて紹介するとともに、福島県内を描いた作品に込めた作者の思いについて解説した。また、紹介作品については、福島県立図書館職員が朗読を行った。					参加者数:100名 ①この講演会では、図書館関係者及び一般県民向けの、二つの実施目的を掲げた。図書館関係者に対しては、地域を踏まえた図書館活動の重要性を知ること。一般県民に対しては、生活に役立つコミュニティの中核施設としての図書館を周知することであったが、「情報」という切り口から、これらの目的をそれぞれに伝えることができた。 ②著名文学者と郷土福島との知られざる関係を知ること、新たな視点から地域を見つめなおす機会となった。参加者へのアンケート結果でも大変好評であり、地域文化の見直しと、更なる復興のために取り組みを継続することの重要性を認識した。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	特定非営利活動法人ま・わ・た	栃木県真岡市	加藤 彰子	特定非営利活動法人岡山NPOセンター・NPO事務支援センター長	NPO法人事務力アップ講座	平成26年12月20日
	講演内容			研修成果		
当日は①NPO基礎・定款・所轄庁手続、②法務局手続、③雇用と給与計算、④会計・決算について、受講者によるワークを織り交ぜながら詳細に指導・助言をしていただいた。 ①では、「NPOとは」「NPO法人の構成」「社員総会と理事会」「定款とは」「定款に記載されていること」「定款を読む人になろう」「NPO法人と所轄庁の関係」「所轄庁へ必要な手続き」「注意すべきこと」について説明をしていただいた。②では、「法務局とは」「NPO法人が登記すべき事項」「登記を懈怠(けたい)すると・・・?」「登記のポイント」について説明をしていただいた。③では、「職員とは」「職員を雇い入れたとき」「労働条件に伴い加入手続きが必要なこと」「給与の計算」について説明をしていただいた。④では、「NPO会系に特有なこと」「NPO新会計基準」「日常業務での会計」「決算書の作成」について説明をしていただいた。					参加者数:40名 NPO法人の設立・運営における事務手続きについて、必要なものすべてが網羅されており、設立間もない法人の担当者にとっては大変わかりやすい講義内容であった。また、活動実績のある法人の担当者にとっても、この講座が日々の業務を見直すきっかけになったものと思われる。公益の増進に寄与する団体として所轄庁に認証されたNPO法人にとって事務力は必要不可欠で、業務効率を低下させたり、自らが気づかぬうちにコンプライアンス違反をしたりして、自団体だけでなく、NPO法人全体の信頼性の低下を招く恐れがある。受講者が「民間団体として、自分たちの好きなことをやっている」という意識でなく、「一定程度の信用をされた団体として、責任をもって地域社会のための活動をする」という意識に転換するきっかけとなれば幸いである。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	NPO法人桐生おはなしの学校	群馬県桐生市	穂高 順也	絵本作家	絵本の素晴らしさを子育て中のお父さんお母さんに楽しみながら知ってもらう	平成26年7月24日
	講演内容			研修成果		
講師自身が作家になるまでをエピソードを交えながらお話があり、その中には子育てにおける親の接し方が子どもに影響することも話されました。次にご自身の作品を実際に読み聞かせながら紹介がありました。出版されていない作品また電子絵本で発表している作品などの紹介もありました。長時間にも関わらず、子どもたちは熱心に聞き入っていました。最後に質問の時間を設けたところ、参加の子ども達が「僕も絵本作家たい。どんな勉強したらいいですか?」などがあり、講師や会場の参加者も顔をほころばせる一幕もあった。					参加者数:60名 子どもと保護者、一般参加者併せて60余人、絨毯敷きのスペースには赤ちゃんや小さいお子さんと連れのお母さんでいっぱいになり、後ろに用意したパイプ椅子も満席になりました。長時間にも関わらず子どもたちも熱心に聞き入っていたことが印象に残っている。 この講座をきっかけに子育てに絵本を取り入れること、私たちスタッフのボランティア活動を窓口に子育て中の両親も日常の子育てをしながらの社会参加を促すことにつながったと思う。また、文化活動の中で地域の子どもの文化を大切に作る仲間づくりにつなげたい。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	榛名まちづくりネット	群馬県高崎市	野尻 博	有限会社作芸人磨心事務所 代表取締役・NPO法人全国元気まちづくり機構理事長	地域資源を活かし、「食と芸術と癒しの里」の実現をめざして！	平成26年10月19日
	講演内容			研修成果		
講演会:地域づくり団体「榛名まちづくりネット」の活動メインテーマである【食と芸術と癒しの郷】実現を目指すためには、地域の資源を再発見し攪拌させ、再生させるにはそれを担う人づくり、推進母体を組織化する方法と、活動を展開するに当たっての心構えを伝授してもらい、当地域の社会的ステイタス向上を図る方策を全国の先進事例に基づいて学び、実践していく事を確認し研修会を行った。そして、地域内外に対するPR方法の諸施策を研究した。				参加者数:57名 世界のエンターティナーであり、NPO法人全国元気まちづくり機構の野尻理事長より日本全国のまちおこしの先進地の成功事例を学び、聴講したことにより、これを活かしこれからの榛名山ろくの疲弊化しつつある地域の活性化策を研修した参加者と問題・課題点を共有することが出来た。この研修会を通じて、異団体による活性化活動ネットワークが構築され、協働して活動していくことが確認された。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	夢こむさ習志野	千葉県習志野市	秋田 英滯子	ソーシャルメディア活用コンサルタント	セルフブランディング&「note」徹底活用セミナー	平成26年7月21日
	講演内容			研修成果		
「自分の強みに気付いて、自分らしさをアピールして、スモールビジネスが簡単に」をテーマに、一人ひとりがどのようにブランディングしていくか、その趣旨とプロセスの概略を理解してもらう。 (1)セルフブランドとは?(2)事故の棚卸し(自身の強みの発見)(3)ブランディング方法(ネットなどの活用)(4)地域での具体的な発揮方法(行動方法など)(5)「note」の活用方法				参加者数:25名 アンケートなどにより、個人の強みの気づきやブランディングの手法、その具体的な発揮方法などについて理解してもらうことができたと感じた。二次会の懇親会にもたくさんの方が参加して、参加者同士の交流も深められ、これも副次的な効果をもたらすものとする。これらの成果をもとに、シニアや主婦層の方々の強みをこれからの社会に還元してもらえらるものと確信している。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	西多摩地域活性化研究会	東京都西多摩郡瑞穂町	木村 俊昭	東京農業大学教授・公益社団法人日本青年会議所アドバイザー 兼地域プロデューサー育成塾塾長・一般社団法人北海道活性化機構代表理事・地域活性化学会理事	瑞穂町から日本を元気にする地域活性化実践塾	平成26年9月6日
	講演内容			研修成果		
北海道小樽市の観光振興による地域活性化や鹿児島県鹿屋市にやねだん集落における地域コミュニティの再生など、全国各地における地域活性化・地方創生の先進事例を通じて、地域活性化に必要不可欠な人財、リーダー、プロデューサーの養成、産・官・学・金等の多様な主体の連携について理解の深化が促された。さらに瑞穂町を中心とする西多摩地域における地域活性化の取り組みについても触れ、この地域特有の課題や資源を踏まえ、より効果的な考え方や実践の要諦についてレクチャーされた。				参加者数:105名 当日は、若手農家等の地元生産者をはじめ、地元青年会議所関係者、行政関係者等、多様な立場・年代の来場者が数多く集った。青年層を中心に地域の活性化や社会開発に関心のある人一般をターゲットとしたため、既存のNPO等まちづくり団体の多くのように、リタイア後のシニア層の活躍の場としてのみではなく、次代を担う志ある若者を含め、あらゆる立場の人が互いの境界を超えて関わり合い、今後、協働のまちづくり、地域活性化を実践していく契機とすることができた。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	村上ohanaネット	新潟県村上市	安藤 哲也	NPO法人ファザーリング・ジャパン代表	子育て講演会「子育て、孫育てを楽しもう！」 ～家族みんなが笑顔になる子育てのひけつ～	平成27年2月1日
	講演内容			研修成果		
講師自身の体験を交えながら、母親業の大変さ、それを支えるためのワークライフバランスを考えた働き方、子どもと過ごす時間の大切さや楽しさ等が話された。子どもの成長をきちんと見守ることで、自立した人間として成長していけるのであり、「子育て」ではなく「子育て」であるという考え方も伺った。 また、ファザーリング・ジャパンが取り組んでいる父親の絵本読み聞かせや料理教室などの活動や、最近増加中の子育て支援のために活躍する「イクジイ」も紹介。最後に「子育ては親子だけのものではなく家族や地域で取組み、支えていくものである」という意識が大切であると結んだ。				参加者数:70名 参加者アンケートでは、大変良かったという声が多く「聞いたことを家族にも伝え、みんなで子育てを楽しんでいきたい(母親)」、「仕事中心で家庭や育児はすべて妻任せだった自分に反省している。明日からは、まず自分が変わりたい(父親)」等の回答が寄せられた。ほぼ参加者全員がアンケートの感想欄に感じた思いを熱心に記入され関心の高さが伺えた。講演後、講師の著書を購入された方がいたり、お父さん方の読み聞かせグループが立ち上がったりする等、父親だけでなく一緒に参加された母親の子育て意識の変化や参加された方同士のつながりが構築されたことは、成果が大いに得られたと感じている。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
31	能美柚ゆうゆう倶楽部	石川県能美市	畠中 智子	株式会社わらびの代表取締役	協働のまちづくりと住民巻き込み型の地域産品づくり	平成26年8月30日
	講演内容			研修成果		
「国造ゆず」のPRとゆずファン拡大。地域特産品づくりのため、高知より、まちづくりの活動で大成功された畠中先生のお話を聞きました。手ぬぐい、一筆便せんなどの作品の秘話や製作のヒントを教えてくださいました。				参加者数:45名 参加された方々の講演の終わったあとの目の輝きが忘れられません。地元に戻ったらこんな風に見ようとか、参加者同士でも話が盛り上がりしました。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
32	NPO親子ふれあい広場	山梨県笛吹市	吉岡 秀人	医師・国際医療団代表	いのちの授業(命の大切さ)	平成26年12月9日
	講演内容			研修成果		
	ミャンマー、カンボジア、ラオスなどの活動地で幼い命を救い続け、年間2,000件の手術を行っている。いままでに1万人以上の手術を行ってきた。視覚障害、エイズ貧困、人身売買の危険にさらされている子どもたちの保護と養育施設の運営などを子どもたちの育ってきた環境、人間として生き方、東日本大震災での緊急医療活動では500名の医療者やボランティアを被災地に派遣した活動の話がされた。			参加者数:212名 この講演会は、みんなで考えよう「地域づくり」「人づくり」の事業の一環として開催した。「命の大切さ」でテーマに開催した今回の講演会は、大変意義のある講演会でした。多くの方が先生の話に感動して、涙を流して聞き入っていました。集計したアンケートを参考に今後も講演会を開催していきたいと思ます。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
33	F.C.長野 RAINBOW	長野県埴科郡坂城町	①風祭 喜一 ②村上 重雄 ③榎岡 良啓	①教職員・大阪ダイバンス指導者・元日本代表監督 ②指導員・日本ブラインドサッカー協会普及部養成部長・元日本代表G.K ③教職員・兵庫サムライスターズ監督・協会強化部部長・元日本代表コラー	視覚障害者と健常者が当たり前前に混ざり合う社会をめざして ブラインドサッカー体験を通して	平成26年7月26日
	講演内容			研修成果		
	1 特別支援学校勤務で思うこと ・障がい者の発想は健常者にとって意外であり、そのことがユニバーサルデザインに繋がる ・一人一人の状況観察を大切に、個に応じた指導が必要。 2 ユニバーサルスポーツの紹介(参加選手による説明) 3 ブラインドサッカーとは 一指導者としての立場から ・特長 健常者のサポートが行えるスポーツ・各人の役割 ・イメージを言葉で伝えることの難しさ、喜びを分かち合う。 褒めることの大切さ ・一人一人の目標を知ることの必要性			参加者数:44名 1解説付きの試合観戦は、ルールを学ぶよい機会であった。 2迫力ある動きを目の当たりに観戦、驚きと感動を覚えた。 3チームメンバーも、指導監督の掛け声により、一人一人の動きに変化が見られ感動した。 4個に応じた指導は、疲れたが楽しく、納得する指導で感謝している。 5猛暑にもかかわらず、給水タイム以外タイムアウトする者もなく充実した時間であった。 6参加者は講演者からユニバーサルデザインについて意見を求められる一体感の有意義な時間であった。 7恵まれた施設に魅力を感じ、参加チームは毎年交流、技を学ぶ計画を約束し再開を願った。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	長野市の観光と物産展実行委員会	長野県長野市	①山田 桂一郎 ②沢登 次彦 ③タイラー・リンチ ④土田 剛弘	①JTIC.SWISS代表 ②株式会社リクルートライフスタイル・じゃらんリサーチセンター長 ③戸倉上山田温泉「亀清旅館」若旦那 ④株式会社信州新町地場産業開発機構代表取締役	一時の効果に頼らない長野市の観光を考える講演会	平成26年9月30日
	講演内容			研修成果		
	・基調講演①「選ばれ続ける地域とは」 地域振興・活性化の問題と課題は、全てエゴと利害関係である。 “勝ち残る”から“価値残る”へ！地域が選ばれる理由について、 それぞれが抱える課題やその解決方法をご講演いただいた。 ・基調講演②「これからの観光振興・観光地域づくり」 地域観光で「新しい価値創造(進化)」が少ない。 地域が「未来に向けて一枚岩」になっていない。 観光客の動向や戦略について、様々な方法で分析されたデータを用いながら今後の観光戦略づくりについてご講演いただいた。 ・パネルディスカッション「一時の効果に頼らない真の観光とは」 基調講演登壇者に地域の実践家を加え、利用者をどのように迎えるか、実際に効果が表れている事例を挙げながら行った。			参加者数:83名 観光分野で陥りやすい「一時の効果に頼った仕掛け」による地域の活性化ではなく、もっと根本的なことを理解し実行する必要がある。このことを強烈な切り口で理論的に、またデータなどを用いて具体的に詳細に説明をしていただき、最後にパネルディスカッションでは実践家の成功事例を紹介・分析することで深い理解を得ることができた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	NPO法人山の遊び舎はらぺこ	長野県伊那市	①森田 伸子 ②依田 敬子	①日本女子大学教授 ②NPO法人響育の山里くじら雲代表	子どもと未来と哲学と一問いから希望へ	平成26年11月30日
	講演内容			研修成果		
	①「お話&哲学ワークショップ」前半では哲学とは何か、討論や話し合いと哲学的対話はどう違うのか、という話。後半はグループに分かれて実際に哲学的対話を実践してみた。テーマは「大人と子どもは違うのか、またどう違うのか」。 ②講演の参加者の子どもを対象に「森のおさんぽ」を実施。会場周辺の森をおさんぽした。また「森のだんごプロジェクト」で粘土質の土の中に種を入れただんごを作り、来場者を持って帰っていただいた。			参加者数:80名 ①哲学ワークショップでは大人や子どもについて人が抱えているイメージを具体的にすることにより、哲学的対話の人が持つ思い込みを超え、よりテーマを掘り下げ、深く話し合いができることを実感していただいた。そのことが答えの簡単に出ない諸問題を考える時に有効であるであろうということを理解した。 ②子どもが楽しんでいるなかで親も集中して講演が聞けた。子どもたちも土や葉っぱなどを触りながら歩くことで自然を体感できた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	鬼無里地区住民自治協議会	長野県長野市	中嶋 研二	健康コンサルタント(理学博士)ホリスティック健康支援研究所代表	人が健康になる！とっておきの話 健康と生きがいづくり	平成26年10月31日
	講演内容			研修成果		
人間が健康になるとは？何が本当の健康なのか？人々の求めている「健康」とはいったい何なのかということについて、さまざまな観点からお話を聞きました。続いて、健康の構成要素について、健康に生きる意味を考える、呼吸の大切さについても、いただいた資料をもとにわかりやすく説明して頂きました。スポーツ吹き矢公認指導員もされる先生に、スポーツ吹き矢公認指導員もされる先生に、スポーツ吹き矢を実演していただき、会場にみえている方の中からも実際に体験してもらいました。				参加者数:60名 私達は基本に戻って“何が本当の健康なのか”を考える必要があります。健康とは単に病気ではないとか虚弱でないというものではありません。今は科学的知識と精神的成長とを結びつける「心の時代」を迎えようとしています。「価値観」「使命感」「人生の目的」といったものが、私達の健康を支える重要な要素になっているということを学びました。これからの人生何をしたいのか、何をやるのかという事が大切なのであり、ただ長く生き続けたいという事が重要なものではありません。人間の存在価値というのは外見よりはむしろ人格、精神、心、魂にあるのではないのでしょうか、という言葉に共感いたしました。呼吸の役割についてもくわしく教えていただきました。現代人は酸欠状態だとのこと。		
37	特定非営利活動法人泉京・垂井	岐阜県不破郡垂井町	①宮下 和佳 ②鈴木 誠	①認定NPO法人ソムニード事務局長代行 ②愛知大学教授	わたしたちが自ら進めるまちづくり ～ファンドレイズとまちづくり条例について学ぶ～	平成26年10月30日 平成27年2月11日
	講演内容			研修成果		
【1】地域づくり団体の活動資金獲得に向けて、支援者に活動や思いを伝えるか、資金獲得の手法と特徴、計画づくりやターゲットの設定などについて、ご自身の団体の経験をもとにお話しいただいた。 【2】垂井町まちづくり基本条例の策定にも関わられた講師が、近隣市町村での類似の取り組みを紹介され、垂井町におけるまちづくり条例の活用方法について、様々な問題提起や提案をお話くださった。				参加者数:21名 【1】参加者それぞれが自身の活動と関連させながら、効果的な資金獲得の方法を学ぶことができた。ワークシートで、具体的な寄付総額や寄付者ごとの目標額を定め、資金獲得をどのように行うかを考えることで、自ら動き出すきっかけを作ることができた。 【2】まちづくり条例が持つ可能性と活用方法を知り、現在の垂井町で取り組みが十分でない点が明らかになったことで、これから取り組んでいくべき活動を明確にすることができた。		
38	NPO法人東海道・吉原宿	静岡県富士市	河本 清順	NPO法人シネマ尾道代表理事	映画館再興から見る地域文化とまちづくりの行方	平成26年11月13日
	講演内容			研修成果		
どのような活動をし、市民の手で映画館を再興したのかスライドを用い解説していただき、コミュニティシネマ(ミニシアター)や映画業界の現状、地域市民と行政の関わりや今後の展開などを、お話いただいた。後半は質疑応答を交えながら、富士市に映画館を再興させるためには何が必要なのか、またどのように市民と連携をとすか等、アドバイスを頂きながらのトークセッションを行った。				参加者数:35名 活動を周知するための手段として、ささいなことでもマスコミを意図的に活用し、ムーブメントを構築していくこと。 映画館として「文化」を発信するためにはニーズだけではなく新しい作品との出会いを提供することが必要である。 町の人々に自分たちの「映画館」だという認識を持たせ後世に継承していくこと。		
39	日間賀島まちづくり協議会	愛知県知多郡南知多町	①藤崎 慎一 ②山田 実希	①株式会社地域活性化プランニング代表取締役 ②株式会社地域活性化プランニング・ロケーションジャパン編集長	地域ブランドとロケ誘致によるアイランドプロモーション	平成26年10月15日
	講演内容			研修成果		
今回の地域活性講演会は、ロケ誘致を利用した地域プロモーションの手法について講演及びワークショップが行われた。第一部は講演で、広告費用を使わずにTVや新聞雑誌に記事として情報を提供する手法の説明があり、藤崎氏が関与された「富士宮やきそば」「豊橋カレーうどん」などの地域での活用例が示された。また、地域メンバーによる地域グルメ開発を通じて、地域へのリピーターを増やす仕組みづくりについて講演がなされた。また第二部では、地域の未来を担う若手を中心にワークショップを行った。そこでは、まちづくりを成功させるヒントとして、過去の成功例から少人数でのまちづくりが有効であるが、独断にならぬよう全体に周知しながら実施していく必要性を説かれた。				参加者数:45名 今回の研修会により、ロケ誘致からつながる地域PRの仕組みについて理解することができた。単に地域で撮影するだけでなく出演者の映像使用許可を得ることによりロケ地観光へ繋がることを学んだ。 また、ワークショップにおいてロケ窓口を用いたワンストップサービスの重要性と、撮影サポートなどの仕組みづくりが有効であり、今後の地域でのロケ組織づくりの機運が高まった。		
40	くまの天女の会	三重県熊野市	広庭 孝次	株式会社イノベーション代表取締役	コミュニケーションマジック交流会	平成26年11月21日
	講演内容			研修成果		
現代社会では効率や論理性が重視され人と人とのコミュニケーションがドライでつまらないものになる傾向がある。しかし本来、人は楽しいことが大好きなのである！そこで！マジックが持つ「感動」や「驚き」「笑い」をコミュニケーションに活かそう！としたものがコミュニケーションMAGICなのである。また、高齢者のための脳の活性化に役に立つと医療関係でも成果が表れており、簡単に出来て楽しめるマジックである。また、この熊野の地域を訪れた方々へ、簡単なマジックをおとして、お互いのコミュニケーションとしては、有効で、初めて出会った方々とも笑顔の交流が生まれる素晴らしいツールである。				参加者数:35名 参加者全員でマジックを教わり、実際にみんなで練習して「出来た！」という笑顔があちこちで見られました。また、初めて会う参加者たちの共通の感動にアイスブレイクとして、直ぐに共通に会話が始まり、距離が縮まり仲良くなりました。この地域にコミュニケーションマジックをおとして、今までに見たことのない現象に「感動」・「驚き」・「笑い」を巻き起こしました。今後は、この研修を活かし地域の人や訪れる人たちと一体感を生むことが出来るように決意を新たにしたいとします。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	こにゃん支え合いプロジェクト推進協議会	滋賀県湖南市	①小峯 充史 ②豊田 陽介	①株式会社エコロミ代表取締役 ②気候ネットワーク主任研究員	～自然エネルギーは地域の者～ 市民共同発電所プロジェクト市民連続講座 ～コナン市民共同発電所参考機設置に向けて～	平成27年2月18日 平成27年2月25日
	講演内容			研修成果		
一般社団法人 調布未来のエネルギー協議会の立場から、調布市での再生可能エネルギー事業についてお話いただきました。協議会の概要、メンバーの構成、事業計画や実際の活動、また行政との関連性についてお話いただき、それぞれの詳しい内容と課題や問題点についても説明がありました。コミュニティビジネスとしての発電事業という観点からの活動、また地域への還元について、活動の最終目的は調布市のイメージアップと調布市を住みよい町にすることであり、今後の事業の展開や協議会の今後の課題もお話頂き、講演後には参加者からの質疑応答もありました。			参加者数:21名 いままで、アプローチ出来ていなかった子育て世代、学校関係者とのつながりを持つことによって今後のエネルギー事業への活動が広がっていくことを気づかされました。また、市民への見学会等を行なうことで、市民共同発電所の活動の見える化が必要であることも学びました。太陽光発電、太陽熱温水器、マキ・ペレットストーブ等々をくみあわせたスマートハウス・グリッドも湖南市の次の展開として参考になりました。エネルギーを通じた地域包括ケアの提案も今後湖南市を住みよい町にしていくなかで重要なことであるとも気づかされました。過疎地域への市民出資とグリーンな電力の購入といった電力の自由化を見守った地域間連携も参考になりました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	認定NPO法人びわこ豊稔の郷	滋賀県守山市	福嶋 伸之	アプリ株式会社代表取締役	ほたるパーク&ウォークにおけるインターネット(スマートフォンアプリ)の活用	平成27年2月21日
	講演内容			研修成果		
インターネット(スマートフォンアプリ)を利用した、来場客への情報発信(どこで何時からイベントがあるか、前日のほたるの飛行情報、トイレの位置情報、当日リアルタイムでのお知らせなど)の可能性などについて聞いた。その後、実際にアプリを作成する作業をOJTで学ぶことができた。			参加者数:50名 ほたるパーク&ウォークの概要を知り、現在、同イベントが抱える課題を抽出できた。また課題に対する対応策のアイデア出しを行い、それをスマホアプリにあてはめて考えることができた。実践として、いくつか実際のアプリもでき、イベント期間中に試験運用していく予定である。たいへん有意義な研修会となった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	泉佐野歴史発掘委員会	大阪府泉佐野市	①武田 文志 ②武田 宗典 ③生一 知哉 ④上田 敦史 ⑤山下 麻乃	①～⑤能楽師	もうひとつの蟻通伝説 世阿弥が作った「蟻通」とは	平成26年9月21日
	講演内容			研修成果		
能楽師5人と郷土史家とのパネルディスカッション形式での講座 能楽師5人と郷土史家の極野修司(当団体委員)が、それぞれの分野・目線から、この地に伝わる蟻通の伝説に基づいた詳しい解説を行い、「蟻通」の魅力や伝えるのみならず、郷土との関係性についての理解も深める講座となった。「蟻通」は上演回数が希少のため、その知名度も低いものであるが、偉人のひとり世阿弥がこの地をテーマとして作った古作であることを浸透させるべく、他の類曲との比較、演者としてこの曲を演じる思い等も首尾よく解説された。(120分)			参加者数:120名 今回の講座には、蟻通神社や能「蟻通」の知名度が低いにもかかわらず、郷土文化・神話伝説・歴史・伝統芸能に興味のある方が、地元のみならず遠方からも参加された。ゆかりの地である蟻通神社にて、各講師の普段聞くことのできない有意義な解説や初めて聞くような事柄に耳を傾けることで、新たな知識や発見を得るとともに、この地域の郷土の特徴に好奇心を持っていただけたと考えている。また、講師にとっても、普段はこの事柄を話す需要や機会も少なく初めての試みであったところ、参加者も多く、最高のアプローチとなった。今後も、この事柄を積極的に紹介する活動の機会をつくり、地域住民をはじめ広いエリアに発信することで、更なる地域づくりのきっかけを作り、地域の活性につなげていきたい。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	特定非営利活動法人なにわ文化芸術芸能推進協議会	大阪府大阪市	①野口 亮 ②上田 敦史 ③森山 泰幸 ④上田 悟	①能楽森田流笛方 ②能楽大倉流小鼓方 ③能楽観世流大鼓方 ④能楽金春流太鼓方	なにわと能の関わりを知る講座 ～何?和・講座～	平成26年11月2日
	講演内容			研修成果		
昔、習い事として必修であった謡曲や能楽囃子の盛んであった中央区船場地域にちなみ、当時の背景や商人の街で栄えた謡曲囃子の稽古文化、嗜みを重視した理由等を能界の第一人者である講師の方々にての詳しい解説を交えた講義を実施。(120分)それぞれの分野から今までのこの業界に携わった過去の経験に基づき、独自の目線にての論議を展開。船場地域での謡曲を習う風習はいわゆる人との重要な交流の場であったことも話された。能楽師のライフワーク、仕事の分野等あまり知られてないことも多く、日本を代表する習い事としての再認識を促すことも話の中で伝えることができた。			参加者数:50名 この事柄を知っている人が受講者の中でほとんどなく、紹介することにより、日本古来の和文化を身近に触れることができるという、いわば未知の世界を体験、認知することができたこと、また船場地域における謡曲、囃子を習う風習があったのは、人とのつながりや信用を見極める重要なコンテンツであったことの講義を受けたことで地域の触れ合いの大切さや未来への地域文化向上を著しく促すことができた。受講者同士この機会でも交流を深めるきっかけとなった。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	兵庫県芦屋市	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事・認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事	成功する市民活動 失敗する市民活動 地域づくり応援講演会	平成26年9月13日
					講演内容	研修成果
市民活動の成功のポイントは、ミッションの設定とそのミッションの達成度合い、戦略的な活動、そして自発性を体現するリーダーシップを発揮できるリーダーがいるかにかかっている。また、失敗のポイントは、自発的な仲間ほど摩擦が大きく(内部対立)、自発的活動は燃えつきやすい(自発性パラドックス)ことにある。こうした成功する市民活動、失敗する市民活動のポイントが、講師自身の持論や実際に見聞した過去の事例などを交えて紹介された。なお講演会は前半の同氏による基調講演、後半の助成団体による助成金説明会の2段階構成となっていたことから、講話の中に助成金の活用に関与する情報提供もあった。				参加者数:74名 地域的な偏りなく、幅広い阪神間の市民活動団体に参加いただいた。アンケート結果からは、「市民(当事者)が意識を持つことで共感しあい寄り添った文化も根付くのではないかと」、「リーダーシップのあり方について、段階的・臨機応変的な考え方が必要だ」という事がわかった」、「目標・目的とミッションの定義が明確でありがたかった」という声が聞かれた。アンケート回答者23名のうち、17名がこのような講演会に「ぜひ参加したい」と回答しており、全体の8割近くの満足を得られた。参加団体の、市民活動の成功・失敗のパターンを踏まえた活動の発展が期待される。		
46	東北地方太平洋沖地震復興支援ネットワーク淡路島	兵庫県淡路市	大井 千加子	合同会社えーる管理者・介護福祉職	東日本大震災の体験談を聞こう	平成27年1月31日
					講演内容	研修成果
福島県南相馬市の福祉施設に勤務していた大井氏が、2011年3月11日の東日本大震災による被災体験及び津波直後の様子を、発生時刻における自身の行動を起点として、時系列に沿って語った。大井氏は地震発生後、施設利用者を高台へ避難させている途中で津波に飲まれた。波が引くと、泥にまみれた利用者の救助や遺体の確認作業に追われたが、翌日には福島第一原発で水素爆発が発生。避難する職員が増えて介護の人手は不足し、葉や食料も底を尽きかけるなかで、「これからは一人ずつを看取ることが、自分の仕事になる」と覚悟した。震災の教訓から、医療や福祉施設では最悪の事態を想定すべきであり、地域住民との関係性の構築が必要だと説明があった。				参加者数:120名 洲本市・淡路市・南あわじ市を中心に多数の方に出席していただいた。聴講した方々からは、「考えるきっかけをいただいた」、「自分も20年前のあの日(阪神淡路大震災)のことは鮮明に記憶している」という声や、「有事の際に、自分には何が出来るのか、混乱に対してどう向き合えるのか、聞くことができた」、「淡路島でも我事としてその時に備える必要性に改めて気付かされた」という声も聞かれた。多数の出席者の満足を得ることができたとともに、今後の福祉対策や危機管理の改善、ひいては減災活動に寄与する内容であった。		
47	特定非営利活動法人奈良国際協力サポーター	奈良県大和高田市	①宗田 好央 ②頼原 澄子 ③清水 彬久 ④西山 恵三	①京都府立大学教授 ②千葉大学准教授 ③特定非営利活動法人アムニティ2000協会代表 ④明日香村囃子	古都奈良のおもてなし景観シンポジウム グローバル化による景観保存の方向性を探る	平成27年2月1日
			講演内容	研修成果		
宗田氏の基調講演は、美しい景観の奈良-新たな保存と再生の時代が始まる-と言う演題で行われた。人口減少への対応、奈良のスマートをどこに求めるのか。歴史を思い馳せる景観形成の必要性。観光客の行動が段階的進化する過程を海外の事例により紹介。美しく元気な地域づくりを求める方策、地域主体の取組、どんな街に住みたいかな等を考慮して、奈良の今後の景観まちづくりを進める必要性等が語られた。シンポジウムでは、頼原氏は英国ナショナルトラストの歴史や文化財保存のシステム、日本との比較を紹介。清水氏は自身が設立したアムニティ2000協会のナショナルトラスト精神や六甲山荘の保存活動を紹介。西山氏は奈良県による景観行政の概要、明日香村で現在行われている村民が取り組む景観計画の策定を紹介。会場からの質問を交え活発な意見交換のシンポジウムとなった。				参加者数:100名 馴染みやすいテーマ設定でもあり、100名あまりの参加者を得た。一般参加者と共に行政や大学、まちづくり等の景観に関係する参加者も多く見られた。講演では、奈良の景観を育むためには、人口減少に伴う新たな術の必要性や観光との関係性により、景観まちづくりを進める必要性を認識することができた。シンポジウムでは、ナショナルトラストの歴史や事例から自らが行動を起こす気概の必要性を認識できた。明日香村の大字単位での景観意識の共有が報告され、景観について市民が取り組むべき方向性を認識できた。来場者から今回の景観シンポジウムに参加して勉強になったという意見が多く聞かれ、奈良の景観まちづくりへのエボックマーケティングになったと思われる。		
48	NPO法人紀州えこなびと	和歌山県和歌山市	舟津 宏昭	富士山アウトドアミュージアム代表	市民による環境問題解決力	平成26年11月18日
					講演内容	研修成果
舟津氏にご来訪いただき、富士山の概要・豆知識(富士山を宇宙から見た写真や、富士山の地形、春先になるとあられる農鳥(フェニックス)、外国人が考える富士山のイメージと日本人の富士山のイメージの違い、自衛隊演習、富士山青木ヶ原の自殺イメージなど)をご紹介いただいた。その後、富士山でおこっていた課題「白い川」の解決した件を伺い、現在おこっている問題である「不法投棄」「オーバーユース」を紹介いただいた。				参加者数:38名 研修や質疑応答により、様々な気づきがあった。紀州えこなびとは10年を越えて活動を継続してきたが、現在は以前ほど活動ができていない。舟津氏の活動は富士山をフィールドにしており、課題も多く、するべきことが多々ある。翻って紀州えこなびとを考えてみると、あまり大きな社会問題に向き合えていない。また、舟津氏は覚悟を持って富士山に向き合い、様々な活動を行っている。紀州えこなびとはサークル活動的で、人生を賭して市民活動を行うというまでの意識はない。いろいろ考えさせていただいた。もちろん市民活動だけが人生ではないので、舟津氏のように職をなげうって富士山活動に身を投じることは、自分ではなかなかできないのが現実。紀州えこなびとの今後のあり方についていろいろと考えさせられた。また、今回ご参加いただいた他団体の方からは「久しぶりによい話を伺えた」「様々な方法があることを勉強できた」などの感謝メールや言葉をいただいた。また、NPO活動ではいつも資金が問題になるが、舟津氏はクラウドファンディングで資金集めを実施したことがあり、実施方法について教えていただいた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
49	まちなみ企画実行委員会	島根県出雲市	①南雲 克志 ②高峰 博保	①ナグデザイン事務所代表 ②株式会社ぶなの森代表取締役	出雲大社門前町 夜のまち歩き～縁結びツアー～	平成26年9月13日 平成26年9月14日
	講演内容			研修成果		
【南雲講師】 平泉町では、世界遺産登録に向けて、それまで各々の団体が行っていた活動を一緒に取組む仕組みを作った。その各々の活動をつなげる仕組みが「浄土のあかり」イベントであった。バラバラの活動がひとつの目的のもとに団結することができた。出雲大社の門前町も個々の取組はすばらしい。個々を充実させ、全体をつなぐことで、随分と変わる。ぜひ、出雲全体をつなぐ光のイベントにし、名前を付けてほしい。また、個々のお店が営業時間を延長することもいいが、夜は、ちょっとした「ヤタイ」で、お酒と食でコミュニケーションを深めるのもいい。市民がいかに関わるかも大事である。			参加者数:50名 出雲大社門前町で、それぞれ地域づくり活動を実践している、神門通りおもてなし協同組合、神迎の道の会、古代出雲歴史博物館の3団体が参加して、それぞれの実践事例を紹介し、講師からは、先進事例の紹介や現在の課題、今後に向けてのアドバイスや提案を受けることができた。また、参加者からも、いろいろな提案やアイデアの提供があり、それぞれの団体においては、課題の整理や改善策の道筋を見出すことができた。			
【高峰講師】 大社は、「縁を結ぶまち」である。それは、①地域人と旅人、②地域人と地域人、③旅人と旅人。どういふふうにと場と旅の楽しみを用意するかが大事である。大社は、「体験・交流」が足りない部分。体験・交流が「縁を結ぶ」柱になる。今回のテーマは、夜の楽しみ方であるが、大社は、昼間は全国からたくさん観光客が来るところだから、「夜はほとんど少人数」にこだわったプログラムを用意してはどうか。一定期間、同じ時空を共有することで、確実にリピーターが増える。テーマは、手仕事や神楽など、いろいろ考えられるが、必ず「食」を絡めた方がいい。「食」はお金が払いやすい。頑張っている若い人を鍛えるためにも若い人をクローズアップさせてはどうか。そうすることで、「一生に一度は出雲へ」から「一年に一度は出雲へ」人々が訪れるようになる。			まずは「行動」ということで、今年の神在祭の期間中(12月2日～12月8日)に、3団体が一斉に「夜のおもてなし企画」を実施することを決めた。この取組を契機として、門前町が一体となって、新たな魅力を観光客や住民に提案し続けることで、出雲大社「平成の大遷宮」で盛り上がった賑わいを持続させていきたい。 そして、「平成の大遷宮」のすべての行事が終了する平成28年度を目標に、目指すべき青写真を描き、段階的に取組を広げて行き、ポスト遷宮に向けて、観光客誘致の新たな取組として定着を図りたい。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
50	宮ノ前地区愛護隊	岡山県浅口市	野村 昌子	株式会社FuwaFuwa代表・バルーンアーティスト	宮ノ前笑楽公(バルーンアートづくりで笑顔づくり・地域づくり)	平成26年11月23日 平成26年11月24日
	講演内容			研修成果		
子どもからお年寄りまでの地区住民50名が、2日間に分かれてバルーンアート世界チャンピオンである講師(岡山県真庭市)の方から、バルーンアートの製作指導を受けました。 受講中は、受講者の笑顔にあふれ、楽しく会話するなど、和やかな雰囲気での講演となりました。			参加者数:50名 風船(バルーンアート)を作り始めるまでは、上手にできるだろうかなど、心配する受講者が多く、また、途中で風船が割れるといったハプニングもありましたが、講師の丁寧な指導もあり、楽しく製作できました。 家族で受講した子どもからは、「可愛い」、「この犬・花・魚・熊、おばあちゃん、お母さん、私が作ったんだよ。」と大変楽しそうに話しており、以前にもまして笑顔と会話が増えていました。受講者からは、「本当に楽しく製作できました。」などの感謝の声もあり、バルーンアートを通じた世代間・地域間の交流が図れ、大変有意義な企画になりました。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
51	浅口市コミュニティ推進協議会	岡山県浅口市	①石原 達也 ②伊達 誠	①NPO法人岡山NPOセンター副代表理事 ②鴨方西小学校・西幼稚園おやじの会	コミュニティによる地域づくりの可能性	平成27年2月15日
	講演内容			研修成果		
○講演会「コミュニティによる地域づくりの可能性」 人口減少、少子高齢化といった社会課題がある中、今後コミュニティとして、どのように地域づくりに取り組んでいったらよいか。「NPO法人スマイル・ちわ」や「高倉自治協議会」など、県内各地の地域による様々な取り組み事例を紹介。どの地域も、地域の様々な主体を巻き込んだり、外部からの力を上手く利用するなど、工夫をして取り組んでいる。 ○実践発表「鴨西っ子防災サマーキャンプの取組み」 今年度に「鴨西っ子防災サマーキャンプ」が、あさくち未来デッサン(市民提案型まちづくり支援事業)に採択され、市役所や消防署、子ども会、PTA、消防団などの他団体と協働して実施。児童の防災意識と地元郷土愛の醸成を図るとともに、地域の連携を深め、活性化を図った。このほか、そもそも流しやジャンボツリーなどの地域イベントを実施し、地域の活性化を図っている。 ○意見交換「講演・実践発表の感想について」 講演や実践発表の内容を元に意見交換を行った。			参加者数:35名 講師による講演及び実践発表により、これからの地域づくりに必要な視点とその手法について学ぶことができた。特に、市内の地域ごとの人口構成、高齢化率等のデータや、県内各地の地域づくりの具体的な事例紹介からは、効果的な課題解決と魅力ある地域づくりに向けて具体的なイメージを持つことができた。 また、他地域の人と意見交換を行うことで、地域課題について情報の共有を図ることができ、今後の地域運営を考えるうえで、良い機会となった。 参加者アンケートからは、「各地域での取り組みを知ることができ、勉強になった」、「おやじの会の活動を他校へも働きかけていきたい」、「具体的な事例が参考になり、見習ってみたい」等の意見が寄せられた。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
52	エコロジー東備	岡山県備前市	①小清水 正美 ②原田 順子	①食べもの研究者 ②一般社団法人農山漁村文化協会職員	～幻の甘味で地域おこし！～ 日生諸島・大府島の「白いも」を味わってみる集い	平成26年12月7日
	講演内容			研修成果		
日生諸島・大府島の白いサツマイモとは？それは「七福」だった。大府島の「白いも」とは品種名「七福」の明治時代の古い品種であり、「七福」は現代のサツマイモを作り出す上で、とても重要な遺伝子資源となった。戦中戦後の食糧難の時代の「諸国語」、「かんし」農林1号)をはじめ現代のサツマイモも多くが「七福」の子供・孫となって私たちの食生活を支えている。つまり、「七福」は美味しいサツマイモであるからこそ、その遺伝子を使った品種改良が行われてきた。全国各地でサツマイモによるまちおこしは展開されているが、全く同じ品種を、伊豆諸島の新島では、地域の食の歴史・文化のアメリカ芋を学びなおし、高校生なども巻き込んだ地域発の商品開発が行われていることが紹介された。そして商品開発するには現在の消費者の目線を重視し、焼イモも手軽な価格でスタイリッシュな商品提供が必要となることを提案いただいた。 小清水氏には、講演当日だけでなく、主催者が事前に提供した大府島の「七福」で試作もしていただけており、重ねて感謝したい。			参加者数:42名 参加者の多くは、本土在住で初めて白いサツマイモを見た人たちでした。サツマイモとは表皮が赤いものと思っている人ばかりですから白いサツマイモには驚いていました。「七福」の歴史や他地域での活動事例、そして今回重視した調理実習と試食を通して、「七福」の実力を知った参加者からは、「どこに行けば売っているのか？来年度に作付したいが種イモは分けてもらえないか？」といった声が閉会後からかかってきました。参加者中でも他の離島在住の農業6次化に積極的な農業者からは、「来年から作付けたい。」と言っていたが、目標の第一段階は達成できたと思います。 また大府島の住民の方から「作付」の状況報告をしていただきました。高齢者ばかりの悲観的な状況報告の最後に、「もう少し頑張るので皆さんも島にサツマイモを作りに来てください」と、とても嬉しいお言葉をいただき、島との交流のきっかけも生まれそうです。 今後の大府島を含めた離島地域の農地の保全や活性化そして備前市地域で人が住み続けられるように、参加者全員がサツマイモ「七福」の可能性を認識できたと手ごたえを感じました。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
53	美咲町自治会長協議会	岡山県久米郡美咲町	徳野 貞雄	熊本大学教授	人口減少は本当に悪いのか ～『地方創生』の畏～	平成27年2月19日
	講演内容			研修成果		
人口減少をテーマに日本の人口ピラミッドはフランスやドイツのような安定塾生型に行こうとしている。総人口は減少しているが正常な形。地方が抱える問題は進学や就職で転出し若者が激減しているが、若いうちに古里に戻れば行政が就職を保障するなど政策とからめた対策を提案。今の65歳以上の方は知識と経験をもち、地域を支えている「プレミアム世代」として、昔と比べ偉業も環境も進んでいる現在は平均年齢は高くても心配することはない。心配しているのは行政だけ。高齢と言っているのが元気な方が多いので、減少が危惧される生産年齢人口は維持できると講演。			参加者数:120名 東京一極集中が引き起こす人口のブラックホール現象など都市への人口流出の現状や数年先を見越した都市と地方のあり方など社会的背景を講演していただき、限界を超えない集落の生き残り、子育て支援策や基幹産業である農業をからめた「むらの婚活」をキーポイントにマチとムラのつながりで社会減を減らしていく。 参加された自治会長は熱心にメモをとり、今の地域活動に生かすなど講演後も教授に質問をしていました。まずは地域から意識をして社会減をなくす取り組みが必要。町外にでも帰ってきやすい環境整備が町内全域に求められる。基幹産業の農業もその一つで後継者不足とからめ、新規就農に移行できる受け皿や地元企業からの職の提供と空き家対策からの情報バンクで住居先の確保、子育て支援策など、地域と行政とが、Uターン、Iターン、Jターンの受け入れを考えていることができた講演になった。			
54	ルネサンスの会	徳島県三好市	①堀 知佐子 ②小松 敦	①レストランリール オーナーシェフ ②オイシックス株式会社 商品開発部長	キノコを主材とする料理講習会 キノコの市場性	平成27年2月16日
	講演内容			研修成果		
【堀講師】 “キノコを美味しく食べて健康に”と題してキノコを主材とした料理講習会を実施。また、食材としてのキノコの効用と題してキノコの成分上手なる調理、保存、キノコの体内での働き等を講演した。 【小松講師】 キノコの市場性と題して消費動向、生産動向、価格動向や野菜を例にした売れる商品づくりについて講演を実施。			参加者数:68名 地域で活躍するボランティア団体、農林業従事者、学生、飲食業者に案内したところ、68名の参加があった。 講演についての感想は、 ・キノコの知識が少なかったので大変勉強になった ・キノコ料理を増やしたい ・この地域に沢山のキノコが自生していることは知っていたが、これを利用したまちづくりに関心が高まってきた キノコを核とした循環型集落づくりについて、住民の意識が高まり成果はあった。			
55	公益財団法人香川県老人クラブ連合会	香川県高松市	三浦 清一郎	生涯学習・社会システム研究者 月刊生涯学習通信「風の便り」編集長	平成26年度 ぼちぼちクラブ香川 みんなの集い 「社会に参画して、健康寿命を伸ばそう」 ～お元気だから活動するのではありません、活動を続けるからお元気なのです～	平成26年11月19日
	講演内容			研修成果		
研修テーマの副題に示すとおり、高齢者は体を使わないことによって使えなくなり、うつ病、認知症、燃え尽き症候群、引き籠りなどで存在感を喪失する。これを防ぐのが、「オーバーロードング法」による「読み、書き、体操、ボランティア」であり、ほどほどの負荷をかけ使い続けることであるという。近年は、血縁、地縁、職場の縁は衰退しつつあり、人間交流を維持するためには新しい縁を築くこと、つまり「活動の縁」が頼りなのです。無縁社会を生き抜く方法は、「生涯健康」、「仲間に出会う」こと、そして「生涯現役」である。あなたに逢えてよかったと言ってくれる人々と出会えるよう老人クラブ活動など地域社会活動を継続しましょう。			参加者数:970名 香川県下には1,351の老人クラブがあり、メンバーは地域高齢者を支える友愛訪問活動やサロン活動、地域の課題である子供の見守り活動や防犯活動、交通安全事故防止活動、地域奉仕活動など、地域になくはならない様々な活動を展開している。こうした活層を行っているクラブのリーダーが今回の参加者の大半であり、日頃の活動の重要性を再認識する内容であった。今後、ますます増加する若手高齢者に地域活動を推進する立場としても、高齢者の特質や傾向を明快に理論づけ、ユニークな語り口で地域づくり活動(=老人クラブ活動)がいかに自他ともに大切であるかといった点で、今後の活動推進に大きく期待できる内容であった。一般参加者も多く、関心が高えた。			
56	灘町・宮内邸を守る会	愛媛県伊予市	北島 力	NPO法人八女町家再生応援団 副代表	歴史的街並みの保存・活用と景観まちづくり	平成26年12月21日
	講演内容			研修成果		
八女福島の街並み保存・まちづくりは、市民が主導的な勉強会を開催し行政を動かす市独自の支援制度、国の街並み景観整備事業、伝統的建造物保存地区選定などを活用して進められてきた。少子高齢化・空洞化による空き家の再生活用のための委員会づくりと、日本の伝統的な建築技術を育成継承する地元建築集団の養成という2つの課題を結びつけたプロジェクトで40棟の再生活用で移住者促進を進め、八女福島方式の先進事例をつくりあげている。			参加者数:60名 伊予市において景観計画・条例策定により、郡中地区の街並み保存が緊急の課題になっており、八女福島の経験は、中心市街地の人口減高齢化の課題に町家再生を通じた移住者増加に成功しているなど、景観まちづくりの今後の進め方に貴重なアドバイスとなった。 地元市民、職員、議員らも多く参加し、景観・街並み整備の住民組織づくりとともに国の制度導入につなげる等熱心な議論が出来た。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
57	古賀ふるさと見分けの会	福岡県古賀市	①三池 敏夫 ②石田 達也	①株式会社特撮研究所 特撮美術監督 ②特定非営利活動法人宮崎文化本舗 代表理事	映画がもたらす郷土の誇り	平成26年8月23日
	講演内容			研修成果		
	【第一部】 あらかじめ三池氏の監修のもと、映画工学を学ぶ大学院生が特撮の手法を用い、古賀市内の団体が出演し、NPO法人FUKUOKAデザインリーグが主に作成したジオラマを活用しながら古賀を舞台とした特撮映画を題材に三池・石田両氏からの指導や解説、また地域へもたらす自信・誇りの示唆を受けた。 【第二部】 古賀市出身の故・井上泰幸氏に関する人となりやその功績を、長らく共に仕事に取り組んできた三池氏にひも解いていただくとともに、石田氏の地域づくりに係る視点より、古賀市民に対して井上氏の故郷で暮らし、その思いを受けついで地域づくり活動につなげる意義について話題を深めていただく形により、お二人より講演をいただいた。			参加者数:550名 古賀市出身で全国的な活躍をされた特撮美術監督である故・井上泰幸氏の功績を古賀市民に伝えると共に、古賀市を舞台にしてその功績に基づき新たな地域づくり活動の萌芽をもたらすことを一つの目的としていた。その観点において、第一部・第二部とも想定していた以上の参加者数をはじめ、新たな道筋と自信・誇りを古賀市民にもたらしたといえる。 また、本件については、私たち古賀ふるさと見分けの会だけではなく、特撮技術を学ぶ大学院生有志や、建築家・デザイナー等で構成される市外のNPO、そして市内のデザイナー・クリエイターや市劇団・文化愛好団体さらには市民ボランティア、市・県・国の行政機関等の多様な主体により実現することが出来た。当初に想定していた以上に団体同士の交流に広がり深まりがあり、当団体はもちろんのこと、地域づくりを目的とする各団体の活動力強い源泉となる経験となった。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
58	遠賀川流域子ども水フォーラム実行委員会	福岡県	福岡 捷二	中央大学研究開発機構教授 工学博士	遠賀川方式と多自然川づくり	平成27年2月22日
	講演内容			研修成果		
	船底形河道と複断面河道の洪水の流れと川底及び河川景観の変化を比較した。船底形河道(高水敷の緩傾斜化)は、洪水時に複断面河道とは異なる流れが見られる。船底形河道では、川の断面全体を使って洪水が流れることで、流れの集中が小さくなる。また、遠賀川の船底形河道では、前の複断面河道と比べ、洪水時の川底の変化が小さくなる。さらに、船底形河道では、高水敷上に多様な水際線を生み出し、河川景観も良くなることがわかった。			参加者数:100名 全国の河川が多自然の視点や環境に配慮して整備されている。また、住民の意見を取り入れたこと、河川を利用する側、使い方など参加型の川づくりがされていることがわかった。洪水時にはより自然に、流速、土地の移動、安全に水を流す等に配慮しながら、河川の景観も改善されたことが挙げられた。人間と自然が共存するには、良・不を考えて木などをどの位置にどれだけ必要か考えるなど、川づくりの本来の姿、技術、専門部門、まちづくり、教育が必要であることを改めて認識した。これまで遠賀川について植物や生き物など水辺のことについて学んできたが、この話を聞いてもっと深く知りたくなった。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	くろしま・ブルーツーリズム協会	長崎県佐世保市	高砂 樹史	特定非営利活動法人おちかアイランドツーリズム協会専務理事	地域おこし講演会	平成26年6月9日
	講演内容			研修成果		
	高齢化が進み、人口減少による島の衰退に何とか歯止めを掛けたいと、長崎県小値賀町のNPO法人おちかアイランドツーリズム協会の取り組みについて講演していただいた。民泊、修学旅行誘致など、観光事業の盛り上げで年間4万人程の観光客を誘致し、島の活性化に大成功を収め、全国的に小値賀の名を知らしめた経緯、取り組み、苦労、成果などのお話をしていただいた。 高砂氏らの活動により、ITターンの人々が増加し、小値賀島の予測人口減少率が次第に緩和している事、少しずつであるが、島に雇用が生まれている事、民泊を通じて、都会の子どもたちに自然の素晴らしさを感じてもらい喜びなど、夢のあるお話だった。島ならではの、NPOチーム作りの難しさなども含め、黒島の現状に即したアドバイスもいただいた。			参加者数:30名 黒島の住人約30人が参加し、聞きなれないNPO法人についての理解が得られ、その役割、観光で地域を盛り上げる方法論などについて教えていただいた。特に、島の若い方々に講演を聞いていただいたことにより、これからの島の担い手に新たな意識が生まれたことと思う。 講演の後は活発な質問があった。その一部として、 ・民泊の導入による、既存の宿泊施設の経営圧迫はなかったか？ ～島全体の観光客の増加によって、却って宿泊者が増加した。 ・NPO活動に対する反発はなかったか？ ～当然あった。しかし、少しずつ協力者を得ながら、最終的には応援してくれる人がほとんどになった。 ・NPO法人自体の利益はどのような形で得られているか？ ～民泊料の3割をいただくなど、手数料収入で収益を得ている。 ・これからの取り組みは？ ～海風の国観光圏事業により、小値賀と佐世保市の観光事業を盛り上げていきたいと考えている。 講演会の後は、高砂市の宿泊旅館に有志が集まって懇親会が開かれ、深夜まで活発な意見交換が行われた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	深見地区まちづくり協議会	大分県宇佐市	杉田 英治	フォレストピア・フットパス	新たな農村の魅力を作り出すには	平成26年9月10日
	講演内容			研修成果		
	フットパスに関して、先進事例を学んだうえで全てを否定するのではなく、地域に浸透させるために段階的な活動推進及び地域の祭りごとと組み合わせるイベントを開催し、両方の取り組みを活性化させる手法、過去の地域の活動実績との組み合わせなどで、眠っていた資源活用によるコース設定やおもてなしの手法などの説明があった。 過疎化する農村について、過疎化と少子化の違いを示し、過去の教育に過疎になった原因があったのではないかと仮説と、将来の子どもが大学卒業後や定年後などに故郷帰りしてもらうために、今すべき子供への教育の話などがあった。 五ヶ瀬自然学校の活動紹介と農家民泊との組み合わせによる資源活用の手法などを通して、外から来た客への資源を活用した娯楽の提供と共に、接待をする側の負担軽減及び誰もが生き生きする活動の事例紹介があった。			参加者数:35名 フットパスの推進については、先進地であっても試行錯誤しながら、段階を踏んで活動を進めていた。ただ何かを始めるのではなく、過去の活動と組み合わせ、資源を活用していく点については改めて学ぶことが多く、地域の魅力や過去の眠った実績との組み合わせ作業から始める必要があると思った。 五ヶ瀬自然学校の資源を活用した取り組みの紹介では、体験学習を通して楽しみながら河川の清掃活動を行い、参加料で利益を生む一石三鳥の事例紹介があり、現在進んでいるフットパスを利用して、参加者が楽しみながらいつの間にか地域貢献してもらい、地域が潤うアイデア探しを行う必要があることが分かった。 既に地域にある団体との協働の取り組みについては、アイデアを形に出来る人、人と人を繋ぐ人、地元のことや地元の人財について詳しい人等、キーパーソンとなる人の存在が非常に重要であることを改めて実感することが出来た。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	大分県生活学校推進協議会	大分県大分市	①江崎 一子 ②米田 誠司	①別府大学食物栄養科学部学部長 ②愛媛大学文学部総合政策学科講師	「未来に向かって、共助と交流、活気ある地域づくり～一人ひとりの絆を大切に～」	平成26年10月16日 平成26年10月17日
	講演内容			研修成果		
平成の大合併により由布市が誕生したが、1990年以降湯布院の観光の合言葉は「花咲かすより根を肥やせ」ということで地産地消の野菜作り、料理研究会と地域の特性等に焦点を当ててきた◆地域住民による仲間とチームを作る◆何を求めて人は地域に来るか、お互いを尊重しながら関係を築いていく努力◆ステップするために旅に出かけ自分自身を知ること◆自分たちの地域、地域資源に責任を持ち自ら内発的に活動すること。観光まちづくりへの処方箋 ①わが町を知る②日常を大事にしながら外に開く③仲間とのチーム作り④滞在できる環境づくり⑤地域環境、風景に責任を持つ。			参加者数:350名 全国的に地域づくり先進地として注目されている湯布院のまちづくりの原点を学ぶことにより、九州各県よりの参加者は改めて自分の住んでいる地域環境を見直し地域の特性の掘り起しに目を向け触発された。特に仲間づくり、自主性のある行動について今後の地域活動の具体性ある課題に挑戦する実践力、勇気が生まれた。地域づくり団体同士の連携、絆も共感でき厚い価値観を実感した。			
62	NPOみやざき技術士の会	宮崎県宮崎市	桑子 敏雄	東京工業大学大学院教授	環境の哲学サロン「環境とわたしのあいだにあるもの」	平成26年11月15日
	講演内容			研修成果		
「環境とわたしのあいだにあるもの」をテーマに桑子先生が、地域づくりにおける住民が持つ潜在的な行動力を公共側がどう引き出していか、その根幹にあるものは、自然を配分しながら持続的に利用していく日本人の共生の価値観を指南した。さらに二人のゲストスピーカーの取組事例を通じ、指南役の専門領域である哲学の「所作」「選択」「遭遇」が本サロンの参加者が共有している現空間であることを認識し、全員で談義を深め、金御岳のフィールドワークにより地域の営みを思索した。			参加者数:70名 全員参加型の談義を重視した結果、「どんぐりの取り組みが自分たちの活動の参考になった」「まつりは、絆を繋ぐ社会装置」「三者の取り組みは共通しているようで、その本質は」の問いに「本物を目標に掲げ、人の関係を築いている」などソーシャルキャピタルへの理解が深まった。さらに、「桑子先生の話をもっと聞きたかった」など本サロンを継続してほしい声も多数寄せられた。また、参加者の中には、川まちづくりの委員等も含まれ、本サロンが参考になり、有意義なものであったと感想を得た一方、談義の時間が短い等の意見もあり、双方向の関連な意見交換がなされた。			
63	嘸鳴会	宮崎県日南市	畦地 履正	株式会社四万十ドラマ 代表取締役	日南の資源を活用したまちづくり	平成26年12月14日
	講演内容			研修成果		
宮崎県亜熱帯作物支場・道の駅なんごう・古澤醸造(名)デ・モンデ・マルシェでのフィールドワーク。道の駅なんごうのパノラマ、ジャカランダ等を活かした街づくり・商品づくりのヒントを講演。古澤醸造では女性杜氏の作られた「煽なり」の販促を討議。デ・モンデ・マルシェでは川野社長も合流。「道の駅四万十とおわ」への現地視察が検討されました。			参加者数:30名 実践者である畦地氏の言葉は重く、参加された方々からは驚嘆の声さえあがりました。誰かに依存するのではなく自分自身で創意工夫することの大切さを感じ取られたと思います。「道の駅四万十とおわ」への視察研修が色々なグループで企画されています。そこから何かを引き出していただけるように思います。			
64	特定非営利活動法人まちづくりGIFT	宮崎県宮崎市	佐々木 俊尚	作家・ジャーナリスト	宮崎県の魅力を伝えるための情報発信を学ぶ	平成27年2月7日
	講演内容			研修成果		
【メディアの活用方法】 米国Webメディアのバズフィード事例を挙げて「記事と広告の区別がなくなっている」などのお話があった。結論として、メディアというのは、媒体ではなく、目的を達成するための「プロセス」であり、「共同体」であり、「コミュニケーション」であるとまとめられた。 【今後の展開】 新しい絆の在り方について、Webが発展すればするほど、その対極にあるリアルなコミュニケーションの在り方も大事になってくる。どんな記事が人気になるのではなく、誰にその記事を届けたいのか？そのための読者開発(顧客の創造)が重要性になることが話された。 これからの人の生き方や価値観の価値観の多様化が進んでくる。「最後に何を大事にするか」から考えて、目的意識を持って、自分らしい生き方考えていくことは重要で、軽井沢や東京などの多様な生き方の実践事例をもってお話された。			参加者数:50名 今後の情報発信方法として、フェイスブックなどSNSで、個人がメディアを持ち情報発信できるようになり、パブリック(公共)とプライベート(個人)の境がなくなってきたりしている現状を把握できた。 アンケートをした結果、研修に参加して良かったと回答した人は32名中32名と高い満足度が得られた。参加者は、情報発信の重要性や、地方の廃校を活用した観光誘致を行うなどの具体的なアイデアも出てきた。その他にも、参加した行政担当者から、地域活性化のための企画に活かすなど発言もあり、非常に実りある研修となった。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	特定非営利活動法人ドロップインセンター	宮崎県宮崎市	①三沢 直子 ②神村 富美子 ③柴田 俊一 ④櫻 幸恵 ⑤土岐 宏枝 ⑥佐久川 博美 ⑦清水 正江 ⑧山本 泰子	①特定非営利活動法人コミュニティ・カウンセリング・センター 理事長 ②特定非営利活動法人コミュニティ・カウンセリング・センター 副理事長 ③常葉大学健康プロデュース学部 准教授 ④岩手県立大学社会福祉学部 講師 ⑤保健師 ⑥NPトレーナー ⑦NPトレーナー ⑧NPトレーナー	第8回親支援教育プログラム“Nobody’s Perfect” 完璧な親なんていないフォーラム	平成27年2月7日 平成27年2月8日
			講演内容		研修成果	
65			NPのこれからを語る～NPの歴史(来し方)と進化(行く末)をみんなで語り合おう!～ 7日 第一分科会～NP実施2回以下ファシリテーター対象スキルアップ研修 第二分科会～NP実施3回以上ファシリテーター対象スキルアップ研修 8日 全体会 講演「NP10年の歩み、そしてこれから」 三沢直子氏 シンポジウム「より進化したNPの取り組み」 「25歳までの若いママを対象としたNP」 神村富美子氏 「生活困窮者世帯の親に交通費を支給したNP」 櫻幸恵氏 「発達の気になる子を育てる親のためのNP手法を用いたグループワークの取組」 土岐宏枝氏		参加者数:44名 親支援教育プログラム“Nobody’s Perfect”完璧な親なんていないフォーラム(以下、NPプログラム)が日本に導入されて12年がたち今までの受講者が17,000名となりファシリテーターも1,400名を超え着実に全国に広がり根付いているが、12年前とは子育て状況がかなり変わってきている。 NPプログラムは常に参加者中心ということが特徴であるため、参加者の変化に合わせて柔軟に行っていくことが求められている。そして、「問題から学ぶ」プログラムでもあるため、今回のスキルアップ研修では、今のような問題が起こりそれはなぜ起こっていて、実際どのようにしたらいいのかということをファシリテーター自身が学習することが出来た。 今回、全国フォーラムとスキルアップ研修を宮崎市で開催できたことにより宮崎で活動しているNPファシリテーターにとって参加し易い機会となりスキルアップすることが出来た。 参加者からも宮崎で開催され参加できてよかったという声が沢山あり、今後のNP講座に参加される子育て中の親の支援につながることもなった。 また他の地域のNPファシリテーターとの意見交換もでき地域に合ったNP講座や子育て支援の在り方など多くのことが吸収でき、それぞれの地域でNPプログラムを開催するときの指針となり、それぞれの地域で受講者が求めている子育て支援の提供につながる事が出来た。	